

全国植樹祭第2回福島県準備委員会 議事概要

- 1 日 時 平成26年3月27日(木) 13:30~15:30
2 場 所 福島テルサ3階「あぶくま」
3 内 容 ・議題 1 基本構想について
 〃 2 開催候補地の選定条件について
 〃 3 その他

※議題1、2について承認された。

4 質疑等

議題1 基本構想について

○浅和定次委員(福島県森林・林業・緑化協会会長):全国植樹祭の取組を県全域に広げるためには、主会場、サブ会場といったことを考えて欲しい。

●島部長:次回の基本構想の骨子案の中で示したい

議題2 開催候補地の選定条件について

○谷本丈夫委員(宇都宮大名誉教授):大規模となり大変な事業である。「森林づくり活動推進についての提言」から考えると、海岸防災林の復旧再生が必要であり、津波被害のあった南相馬市付近でできたらと思う。選定基準にのっついて南相馬市辺りを選定してもらえればと思いました。

●島部長:「森林づくり活動推進についての提言」を踏まえ、次回候補地を提案したい。

○佐川泉委員(福島県内水面漁業協同組合連合会代表理事長):選定条件を満たすものとなると限定される。

アクセスから考えると郡山だろう。

復興から考えると浜通りだと思う。その辺りを考えて欲しい。

○石井浩委員(福島県商工会議所連合会常任幹事):選定条件の中にセキュリティが確保できることあるが、天皇陛下が来られることを考慮する必要があると思うが、どこかに記載があるのか。

●水戸次長:「緊急時の対応及びセキュリティが確保できること」に含めて書いている。資料2の「基本構想について」の「会場整備等」の中で具体的に記載する考えである。

○浅和定次委員(福島県森林・林業・緑化協会会長):両陛下が来られるし、セキュリティなど総合的に判断し、厳正、公平に然るべき場所を選定すべきだ。事務局にはそのための案を示して欲しい。

県民総参加のための、主会場に加え、サブ会場を設置することを考える必要がある。

緑の少年団などはいろいろな市町村にある訳だからそこを考慮する必要がある。

主会場は総合的判断でやらないといけない。何か事故があったら困る。他県の例にならってしっかり原案を作って欲しい。

●加藤課長：御意見を踏まえ、次回の開催候補地の案でしっかり示したい。

●畠部長：先ほどの天皇陛下の件は、条件の中の(8)「緊急時の対応及びセキュリティが確保できること」の部分に含まれる。

○安田清敏委員（福島県町村会事務局長）：開催規模の想定は25,000人がどのような人かは、資料3のP4でいいか。

また、会場整備に多額の費用を要しないとあるが、予算はどの程度確保できるのか。

海岸防災林の再生は否定しないが、福島は放射性物質からの復旧、復興も考慮すべきだと思う。

●加藤課長：式典参加者11,000人の内訳が資料3のP4になる。そこに関連行事参加者を含めると25,000人となる。

予算は会場に左右される。ちなみに、先催県の例では、H25の鳥取は総事業費で8億円を上回る規模と聞いている。3億円程度という県もある。県によりまちまちである。

○鈴木美紀夫委員（代理：齋藤圭一次席）：天皇陛下の関係で、去年、一昨年と行幸啓をやっているが、段々御高齢となっているため、いろいろな制約がでてきている。車の移動速度も落としているため、移動距離も短くなる。

ちなみに、宿泊場所は福島国体で吉川屋、去年が吉川屋 豊かな海づくり大会が、相馬の飛天とJビレッジであった。

○渡邊一夫（福島県林研グループ会長）：大型スクリーンもあるので、福島県方式で、浜通り、中通り、会津で3件中継をしながらやるというのも1つの手だ。

南相馬に1か所に全員が集まるのも大変であるし、主体はやはり海岸防災林が大事だと思う。

しかし、中通りでは林研グループの集まりの中で、赤面山という阿武隈川の上流の場所が荒れて大変なことになっているので、ボランティアの方が入った訳だが、中通りであれば、赤面と昭和45年に植樹祭を行った木がどのくらいになったかという場所とか、南相馬もいいだろうし、いわきもいいだろうし、そういうことで3元方式、中継によってやるというのも1つの手だと思えます。以上です。

●畠部長：様々に御意見をいただいたので、それらを踏まえ次回、開催候補地の案を示したい。

議題3 その他

特になし

※司会（鈴木主幹）より、全国植樹祭第3回福島県準備委員会は、5月中旬を予定していることを説明して閉会